

医師として母として妻として充実した時間を過ごすための大阪医療センターの取り組み

渋谷 博美

第62回国立病院総合医学会
(平成20年11月21日 於東京)

IRYO Vol. 63 No. 9 (565-568) 2009

要旨

女性医師の増加にともない、妊娠・出産・子育てなどによる離職率の増加が、医師不足の原因の1つにあげられる。仕事を続けるためには、働きたいという意志を持つことはもちろんであるが、それだけでは乗り越えられない状況に陥ることもある。医師として働き続けるために、また、いったん離職している医師を復帰に導くために、大阪医療センターでは、平成17年に「女性医師勤務環境改善プロジェクト」を発足し、さまざまな取り組みを行っている。具体的な例として、①当直室の整備、院内売店の充実などの環境改善、②シンポジウムの開催や研修コースの作成などのママさん医師復職支援、③保育所の充実や夜間保育の実施などの育児支援、④育児短時間勤務制度や変則勤務制度の導入による就労形態の柔軟化の4点である。プロジェクト発足から約3年経過して、見えてきた成果としては、麻酔科医や病理医の人材確保、復職支援制度による総合内科一般外来、精神科、リハビリテーション科に女性医師が復職してきた。また、このプロジェクトは看護師の離職防止にもつながった。しかし、子どもを持つ女性だけを優遇するのではなく、子どもを持たない女性や男性医師の精神的・肉体的負担を考慮する必要がある。お互いにコミュニケーションを大切にし、給与面で差をつけるなどの工夫をする、金銭面でも差をつける必要もあると考えられた。

プロジェクトを進めていく過程で、女性医師の勤務環境を改善するためには、男女を問わず医師全体の勤務環境を改善しなければ根本的な解決にはならないことが明らかになった。働きやすい職場は、医療収益アップにもつながると思われる。

キーワード 女性医師、復職支援、勤務環境

はじめに

昨今の医師不足は、大きな社会問題になっており、

その原因のひとつに、女性医師の増加が取り上げられている。最近の医師国家試験合格者の3割強が女性である。大阪医療センターの女性医師の割合も、

国立病院機構大阪医療センター 麻酔科・職員研修部
別刷請求先：渋谷博美 国立病院機構大阪医療センター 麻酔科・職員研修部
〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14
(平成21年3月9日受付、平成21年8月14日受理)

Approach of NHO Osaka Medical Center for a Woman Physician to Have a Fruitful Time as a Doctor, as a Mother, and as a Wife

Hiromi Shibuya, NHO Osaka Medical Center

Key Words: woman physician, reinstatement support, work environment